

2021年度（令和3年度）事業計画書

公益財団法人大阪ユースホステル協会の活動目的である「青少年の健全育成」に、コロナ感染予防対策に充分配慮しながら、2021年度も積極的に取り組んでまいります。その目的の達成のために、時代の変化や社会の要請の変化にも柔軟に対応し、社会貢献を意識して、施設の特性を活かした事業やアフターコロナの観点を加えた教育的価値を持ったプログラム実施していきます。そして来年度から当協会が運営開始する長居ユースホステルを加えて、旅の楽しさ、自然とのふれあいや野外活動での発見、地域の交流を促進するように工夫し、ホームページやチラシからの広報だけでなく、全国のユースホステルや各種関係団体と連携して幅広く発信します。また、設備の整備や接客対応の向上など、より利用者に喜ばれるサービスを提供いたします。

基本方針

1. 青少年健全育成への取り組み

長居ユースホステルを加えた4拠点において、施設の安全な運営および各種事業を通じて、ユースホステル運動の活性化と青少年の健全育成に取り組めます。また、近畿ブロックユースホステル協議会として日本ユースホステル協会と連携して、青少年対象の事業の活性化と共同企画、広報活動の強化に取り組めます。

2. 利用者視点に立つ施設の運営

世界各国からの旅行者が多くは見込めない中、青少年団体、学校団体のための宿泊施設として、また合宿研修等の教育的な場として、直営、指定管理の各施設を運営します。長居ユースホステルでは、長居公園の連合体の一員として、公園、植物園、スタジアムと積極的に連携をして、宿泊を含めた魅力あるプランの発信をします。既存施設では、「更なる利用促進」「利用者満足度の向上」「施設の健全な維持管理」を基本方針として、昨年、実現できなかったことに挑戦していきます。また国内の新規利用団体の開拓のために、4施設の特徴、特性を掲載した合同パンフレットを作成して、協会として総合的、広域的に旅行代理店や関連団体に向けて広報、営業活動を実施していきます。個人利用者獲得増のための予約サイトの積極的な活用やHPの動画導入などリニューアルしていきます。

3. 各種主催事業の実施

引き続き子どもや家族を対象とし、体験活動を通じて子どもの成長や家族の絆を深めることを促します。昨年中止となった、日本ユースホステル協会と連携した「旅をする機会に恵まれない子どもたちに旅を贈ろう」という企画を今年度は再開を計画しています。

事業計画

1, ユースホステルの普及・広報

ユースホステルおよび青少年施設の管理運営を行い、国内外の青少年および青少年を取り巻く広い年齢層の方々の施設利用を通じて青少年の健全育成を図るとともに、会員の維持と新規会員の獲得、ユースホステルを知らない層への積極的なPRを行い、ユースホステル運動の発展に努めます。

- ・大阪市立長居ユースホステルの指定管理者として運営開始
- ・日本ユースホステル協会や近畿ブロックユースホステル協議会と協働し、コロナ禍収束後の回復を軌道に乗せる
- ・デジタル会員証の積極的な推進
- ・年齢層に応じた会費を新たに設定し実質値下げとなった「終身パス」と、適用範囲が拡大された「家族パス」の会員獲得への注力
- ・SNSや各種パブリシティーを有効活用した情報提供や広報
- ・事業所の枠を超えた営業・広報チームによる集客活動
- ・主催事業の参加や団体での利用をきっかけとした、参加者各位に対するユースホステルへの誘客

2, ユースホステル運動の事業推進

ボランティア活動家による下見や準備が可能になり、また参加者を募集して展開する事業の実施が広く容認されるようになり次第、以下の事業を順次再開します。(本数は未定です)

(1) 子ども事業

- ① 主に当協会施設を利用した日帰りイベント
- ② 旅する機会に恵まれない子ども達を対象にしたユースホステル宿泊体験を伴う社会貢献事業(スリープフォーピース)
- ③ 関係団体が実施する子ども事業への協力・出展(子どもカーニバル等)

(2) ウォーキング事業

- ① 健脚者向け長距離歩行やホステリング事業
 - ・第48回伊勢迄歩講(12月)
 - ・一発チャレンジ100km歩行(秋)
- ② 日帰り近郊ウォーキング・ハイキング
- ③ 歩行検定

(3) 会員サービスの事業・国際交流

- ① 旅行相談会(月1回)の開催
- ② 外国人旅行者のためのインフォメーション活動

(4) リーダーと指導者の養成

- ① ボランティアリーダーの委嘱会・合同研修会
- ② ボランティアリーダー募集のための合同説明会
- ③ ボランティア各組織ごとの専門的研修会
- ④ 大学ユースホステルクラブの活動支援

(5) 広報活動

- ① 長居ユースホステルを加えた4施設共同での営業・広報活動
- ② 近畿ブロックユースホステル協議会での共同広報
- ③ モンベルクラブフレンドフェアへのブース出展
- ④ 大阪観光局等が主催する商談会への出席や広報資料の提供
- ⑤ 各種情報掲載サイトへの情報提供

3. 新大阪事業所(大阪市立青少年センター)

日帰り研修施設である文化ゾーンは新型コロナウイルスによる影響からの回復は比較的早いと考えています。一方、宿泊ゾーンや、レストラン部門における多人数での利用は見通しが立ちにくい状況です。各部署が相互に連携し、利用者の方々により多角的に施設を利用いただくことで、できるだけ早期の復調を目指します。

新型コロナウイルスの影響を受け、特に上半期はユースホステルの相部屋を主流とした利用方法は敬遠されると思われまますので、WEB サイトでの家族・青少年グループ1室貸し切りプランの販売拡大など、収束状況を見ながら部屋貸しを中心とした売り出し方法での販売を試みます。下半期に向けては国内団体を視野に入れて営業活動を進めていくと同時に、海外については新たに技能実習生の宿泊についても受け入れを進めます。

(1) 文化ゾーン

- ① アンケートや利用者の声による利用者ニーズの把握
- ② ニーズに合わせた設備・備品の更新
- ③ インターネット予約の更なる推進
- ④ ユースホステルとの合同利用(併用利用)の推進

(2) 宿泊ゾーン(新大阪ユースホステル)

- ① コロナウイルス感染対策を徹底していることをアピール
- ② 個人利用については柔軟に個室対応で予約を獲得
- ③ 長期休日期間に大阪近郊の小中学生向けの宿泊プランを作成
- ④ 団体取扱い旅行者や団体代表者向けに、館内案内動画を作成しホームページに掲載
- ⑤ 他事業所と合同で学校団体を中心に営業活動を実施
- ⑥ 状況が好転次第、海外からの利用受入を再開するため、海外のエージェントと密な連携を継続

(3) レストラン(ココカフェ)

- ① 広報の見直しと強化
 - ・WEBサイトのデザイン変更、WEB予約の強化
 - ・SNSを有効に使った利用促進
- ② 結婚式紹介所やエージェント等とのタイアップによる結婚式二次会や同窓会利用の獲得
- ③ ランチの魅力向上
ランチメニューの見直し
季節の特色を活かしたフェアの開催(年4回)
- ④ デザートの販売促進
 - ・ランチタイムへのセットメニューを設定
 - ・喫茶タイムの集客
 - ・台湾デザートメーカーとの提携による本場のスノーアイスやタピオカデザートの提供
- ⑤ 会議室利用者からの受注
弁当/デリバリーメニューの充実
- ⑥ 特別支援学校の校外学習におけるアレルギーや摂食障がいに対応した昼食の提供
- ⑦ ヴィーガン、ベジタリアン、宗教対応のメニューの提供(予約制)
事前打合せにより要望を把握して提供
- ⑧ ライブ/セミナー等のイベントプランの新規導入

(4) 事業の企画と実施

- ① 青少年育成事業
 - ・青少年ダンス&ボーカルエンタテイメント事業
2020年に1年を通じて行ったレッスンの発表会 4月
 - ・ここぷらキッズイベント 毎月1回
 - ・KIDS DANCE 初級・中級コース
 - ・七夕まつり(笹と短冊の設置) 7月

- ・夏休み 親子で楽しむ工作教室 8月
- ・高校生KOKOチャレンジアワード
(バンドやダンスのコンテスト)予選・決勝の2回実施
- ・KOKO秋フェスティバル 10月
- ・サンクスギビングフェスタ
(練習利用者対象の発表会) 3月
- ② 自主事業
 - ・童謡喫茶 毎月1回
 - ・カルチャー教室
(ヨガ教室、大人のためのピアノ教室など) 年間各3コース
- ③ 宿泊者対象事業
 - ・ロビーコンサート 毎月2~3回
クロマチックハーモニカ、ゴスペル、尺八、
篠笛等
 - ・日本文化体験 毎月1回
折り紙、書道、浴衣着付、コスプレ、茶道等
 - ・季節のイベント 随時
七夕、淀川花火、ハロウィン、クリスマス、
年越しイベント、節分等
 - ・その他(似顔絵等)
- ④ ココカフェイベント事業
 - ・フォークソングナイト 毎月1回
 - ・ココカフェライブ 状況を見ながら再開

(5) 利用獲得目標

	2021年目標	2020年見込	2019年比
貸室(文化ゾーン)	198,000人	88,500人	85%
利用率	50%	40%	
宿泊(新大阪ユースホステル)	16,000人	800人	96%
ベッド稼働率	35%	2%	
客室稼働率	40%	8%	
レストラン ランチ	12,000人	5,000人	117%
(ココカフェ) パーティー	70組 1,800人	5組 70人	68%
ライブ・イベント	8組 160人	4組 50人	5%

※ 「2019年比」は、2021年の目標値の2019年度実績に対する割合です(以下、同様)

4, 羽衣事業所(大阪国際ユースホステル・羽衣青少年センター)

感染防止対策を充実させ、安心してご利用いただける施設づくりを行います。新たな利用促進としては、外国人技能実習生の合同研修での利用に取り組みます。既に成立していた予約があり、コロナ禍でいったん中止となったものの、今後も利用に大いに期待できることから、独自のキャンペーンを企画し受け入れの拡充を目指します。近隣施設との共同のイベントを取り入れた宿泊プランの販売も引き続き行います。

事業では従来 of 企画を継続・発展させるとともに、時代の要請に応えられる新たな取り組みを行います。そのために地域社会との連携や、課題の発見と解決につとめ、次世代をにやう青少年の育成・災害に対する学びの提供・親子が心身を共にできるプログラム展開など、社会貢献につながる事業展開に努めます。食事を伴う事業は大変人気がありますので、感染予防に最大限の注意を払い、順次再開してまいります。

(1) 利用促進活動

- ① 外国人技能実習生の合同研修場所としての営業活動の実施
- ② 学校やインバウンドへ定期的な誘致営業の継続
- ③ 災害教育にいかせる食材メニューの販売促進
- ④ 独自のキャンペーンを取り入れたイベントの実施
- ⑤ ユースホステルや浜寺公園の展示スペースの充実
- ⑥ SNSを活用した広報活動の継続

(2) 施設の管理・運営

- ① 排水設備の高圧洗浄清掃
- ② レンタルによる施設照明のLED化の推進
- ③ 宿泊棟の洗面台の排水管交換
- ④ フロン排出抑制法による点検実施
- ⑤ SNSやホームページの充実

(3) 地域・人との連携

- ① 公園を軸とした近隣施設との共同イベントの実施
- ② シルバー世代が気軽に参加できるイベントの実施
- ③ 地域子どもやファミリーを対象としたイベントの実施
- ④ 新規ボランティアの募集と育成
- ⑤ 近隣子ども会の協力を得ての広報活動
- ⑥ 高石市教育委員会の協力を得て青少年育成会等に広報活動

(4) エコ活動の推進

- ① 節電・節水等を入所時のオリエンテーションやポスター掲示等で啓発
- ② 炊さん場一部照明に太陽光発電を活用
- ③ 食材の廃棄ロス減少への取組み

(5) 事業の企画と実施

- ① こども対象の事業
 - ・はごろもキッズデイ 8回
 - ・キッズクッキング 3回×2コース 10～3月
 - ・デイキャンプ 3月
- ② 家族対象の事業
 - ・アウトドアクッキング 6・10・3月
 - ・災害学習を取り入れた親子事業 7月
- ③ 一般向けの事業
 - ・教室事業 (ヨガ・太極拳等) 21教室
 - ・童謡喫茶 10回(8・3月除く)
 - ・寄席 6・10月
 - ・ノルディックウォーキングツアー 6・11月
- ④ 地域と連携した施設開放の事業
 - ・友×遊フェスティバル 11月
- ⑤ 宿泊者を対象とした事業
 - ・大晦日・元旦の宿泊イベント 12・1月
- ⑥ 食堂を利用したイベント
 - ・ボジョレーヌーボーパーティー 11月
 - ・日本酒イベント 2月

(6) 利用獲得目標

	2021年目標	2020年見込	2019年比
羽衣青少年センター 稼働率	90,000人 21%	35,000人 10%	86%
大阪国際ユースホステル ベッド稼働率 客室稼働率	15,000人 25% 28%	2,900人 4% 6%	75%

5, 大阪府立少年自然の家

自然の家の指定管理は第3期6年目を迎えます。新型コロナウイルス感染症は令和3年度の利用にも影響しており、厳しい幕開けになりそうです。施設としてはコロナ禍においても、「大阪府新型コロナウイルス対策本部」の方針や業種別ガイドラインに基づく感染対策を進め、安心してご利用いただけるように努めます。

プログラムとしては昨年より好評であった「防災プログラム」など子どもたちの「生きる力」をはぐくむための体験活動をさらに充実させてまいります。また、企業のCSR活動とのコラボレーションや近隣施設の資源を活用するなど、利用者を飽きさせない多様な活動を展開します。

事業は、要望の多いファミリーや、幼児向けの新イベントも手掛けてまいります。また、社会教育施設として府内の子どもたちにプログラム体験をしてもらう活動（出前講座）をさらに推進し、新たなプログラム開発とスタッフのスキルアップを図ります。

(1) 新規利用者層の開拓のための施設整備

- ① バーベキューガーデン奥貝塚において毎月1回の事業実施による集客と広報
- ② バーベキューガーデンにて夏期、水遊びができる環境の整備

(2) 利用促進活動

- ① 感染症対策として個食対応や防災袋を使った炊飯の提案
- ② ホームページリニューアルとモバイル版への対応
- ③ 動画共有サービスなどを有効活用し、下見や打ち合わせの簡素化
- ④ SNSによる広報をさらに充実させ、フォロワー獲得を図る
- ⑤ 新たなアクティビティ開発やキャンペーンによる利用推進
- ⑥ 家族や幼児が参加できる、多様なニーズに合ったイベントの開催

(3) 施設の管理・運営

- ① 屋外における登山道、道標の整備
- ② 食物アレルギーや摂食障がいのある方への対応食の提供
- ③ 宿泊棟や本館の建具・鍵などの修繕
- ④ 利用者目線に立った館内外における案内版の設置

(4) 社会教育施設としての取り組み

- ① 学校の授業と連動したプログラム提供
- ② 教員や一般向けに野外活動やレクリエーション講習実施
- ③ 食育の推進と食事内容の充実
- ④ 出前講座の実施

- ⑤ ボランティアリーダーの育成と活動場面の拡大
- ⑥ 障がい者の就労支援と人に優しい施設づくり
- ⑦ 近隣市町村との連携
- ⑧ 青年の家等連絡協議会を中心に他の青少年施設と連携

(5) 事業の企画と実施

- ① 子ども対象
 - ・フォレストジュニアクラブ 年間を通じ6回
 - ・こどもワイルドキャンプ 8月
 - ・中高生チャレンジキャンプ 8月
 - ・プログラミングキャンプ 10月
 - ・アドプトフォレスト事業 11月
- ② 家族対象
 - ・ゴールデンウィーク宿泊パック 5月
 - ・BBQ ガーデンイベント 毎月1回
 - ・親子 de しぜんのようちえん 年間を通じ4回
 - ・木の実でジャムづくり 7月
 - ・ファミリーキャンプ 年間を通じ2回
 - ・たき火を楽しもう 1・2月8回
- ③ 社会体育・指導者養成
 - ・プログラム体験会 4月
 - ・教員のための野外活動教室 申込みに応じ随時
 - ・ツリーイング指導者養成講習会 年間を通じ2回
 - ・野外活動指導者講習会 1月
- ④ 知的障がいのある子どもの支援事業
 - ・乗馬体験と臨床動作法 10月
- ⑤ 災害に備える支援事業
 - ・防災キャンプ 9月
- ⑥ 野外活動と他分野の融合事業
 - ・コスプレの森 年間を通じ4回
 - ・森の婚活 9月
 - ・自然と絵本のコラボレーション 4月
 - ・えほんのひろば 11月
- ⑦ 大人向けの自然体験活動
 - ・おとなのえんそく 5月・8月
 - ・シルバー生涯学習 DAY 申込みに応じ随時

- ⑧ 地域や市町村等との連携事業
- ・おおさか元気広場 出前講座 申込みに応じ随時
 - ・自然の家オープンデー
(音の葉音楽祭・自然体験プログラム等) 11月

(6) 利用者サービスの向上

- ① 利用者の目的の達成と満足度を調査分析と顧客満足度の向上
- ② 利用満足度調査結果に基づき、優先順位を設けて修繕等実施
- ③ 評判の良い外部施設の見学を実施しノウハウを取り入れる

(7) 団体向けセットプラン

- ① 感染対策を念頭においた野外料理と自然体験活動の開発
- ② ツリーイングやスラックライン等の体験活動
- ③ 企業や団体の CSR 活動とのコラボレーション

(8) 利用獲得目標

	2021 年度目標	2020 年度見込	2019 年比
日帰りおよび宿泊利用	74,000人	25,087人	84%

<共同事業体 一般財団法人大阪府青少年活動財団>

6. 大阪市立長居ユースホステル

2021年4月から20年の期間で、大阪市立長居ユースホステルの指定管理者となりました。これは長居公園の総合的な指定管理者となったわくわくパーククリエイティブプロジェクトの一員として、ユースホステル部門を担当するものです。宿泊とスポーツ、宿泊とエンタテインメントなど公園施設やアクティビティーと様々な連携を図り、ユースホステルの新しい形を創造し、多くの方に愛されるユースホステルを目指します。

また、利用者数はコロナ禍の影響で初年度は5000人を目標としており、厳しいスタートとなりますが、2023年度の黒字化を達成するために、積極的に事業展開を行います。

(1) 利用促進活動

- ① 他施設（ヤンマースタジアムやヨドコウ桜スタジアム等）と積極的にコラボレーションした魅力のある集客企画の実施
- ② ホームページをリニューアルし、SNSを絡めた情報発信の強化

- ③ アスリート向けの食事をはじめ、各種アレルギーへの対応食など、リクエストにフレキシブルに対応
- ④ 宿泊者だけではなく、一般公園来場者にも食事提供開始
- ⑤ 外国人技能実習生滞在施設又は合同研修の場として広報
- ⑥ 羽衣事業部と連携し、バスで来られる団体様の積極的な誘致

(2) 施設の管理・運営

- ① 施設のLED化の推進
- ② サーバ・複合機、必要最低限の機器導入
- ③ 厨房機器の新規導入
- ④ 羽衣事業部のノウハウを投入
- ⑤ 公園、スタジアムとの分担・調整により効率的な管理体制

(3) 地域・人との連携

- ① 現状の事業を見直し、協会内での知見を活かしたプログラムを企画し、気軽に館内に入ってもらえる雰囲気づくり
- ② 近隣の方を対象とした、テーマに合わせた食事イベントの実施
- ③ LINE登録者を増やし、それに向けた気軽な情報発信

(4) 事業の企画と実施

- ① 既存の事業を継承しつつ、防災を意識した新規プログラムの考案
- ② ヨドコウ桜スタジアムの柿落としイベント、スタジアムキャンプや宿泊・植物園パック企画などの実施

(5) 利用獲得目標

	2021年度目標	2020年度見込み	2019年比
宿泊利用人数	5,000人	---	53%

以 上